

2年学年通信

能美市立根上中学校
令和3年(2021年)
2月19日(金) No. 36

3学期の総合的学習の時間では、3年生の修学旅行の事前学習として、平和学習を行っています。先日鑑賞した「はだしのゲン」は作者である中沢啓治さんの自伝的漫画を原作としたドラマで、実際に中沢さんが経験したことの多くのエピソードが描かれているそうです。原作の漫画は何カ国語にも翻訳され、世界中の人たちに原子爆弾の恐ろしさを訴えています。図書館にもありますので興味のある人は読んでみて下さい。



「はだしのゲン」を見ての感想

「はだしのゲン」を見て昔の戦争の辛さがわかりました。今の時代、普通にご飯を食べられているけど、昔はご飯を食べても少ししか食べられず本当に大変だったんだな、と思いました。戦争を反対する人は、昔では非国民と言われ、嫌がらせなどをされていて、昔は戦争を反対する人が許せなかったのだとわかりました。でも、戦争はしてはいけないことで、ただ多くの人々が亡くなっただけで、本当に可哀想だったと思います。原子爆弾は本当にすごい被害を及ぼしたんだな、と思いました。ピカドンで髪が抜けて身体が寒いと感じるようになり、死んでしまう。本当に怖いと思いました。「はだしのゲン」を見て、前より更に戦争はダメなことだと思ったし、これからは戦争が一生無いと良いなと思いました。(1組 男子)

すごく考えさせられた映画だった。幸せだった家庭が原爆で崩壊し、主人公ゲンは、父と姉と弟を失い、母と生まれたばかりの友子と生きていくこととなった。そんなゲンを見て、私は人間の素晴らしさを知った。

色々な人から馬鹿にされようとも、ゲンは諦めず、生まれてきたばかりの友子のために働いていた。そこからゲンの家族愛を知った。私は始めからは見ていないが、それでも自分に無い感情や考えがあることを理解したお陰で、成長することが出来た気がする。

人間は欲深く、自分が良ければいいと考える醜い生き物だと思っていた。しかし、それは少し違って、他人のために頑張れる人間、相手のことを想える人間がいた。そんな人達を見て、私は感動した。私は今まで戦争とは無関係に生きてきた。しかしこの映画を見て、戦争が起こることで生じる悲しみや怒りを感じた。

(2組 男子)

この「はだしのゲン」という映画を見て、戦争がどれだけ苦しくて怖いことかと、わかりました。今まで戦争はしていたけれど、この一発「ピカドン」でどれだけ多くの人の命や希望、人生が終わったのかと思うと、悔しくてたまりません。

この話にもあったけれど、もっと前に終戦を迎えていれば、ここまでの命や心の傷はなかったかも知れません。この話は一つの家族の話だけれど、これが何万という家族がこのような生活を送っていたと思うと、戦争は言葉では表せないくらい危険でダメだと思いました。そんな中でも「ゲン」さんはくじけず、小さな子どもながらもいつも笑顔で元気にいられてすごいと思いました。自分だったらずっと下を向いて落ち込んで死んだ方がましだと思って死んでいたと思います。そのくらい「ゲン」はすごいと思いました。

この話を見て、いつも一緒にいた家族が、一気に壊れて建物や人を一瞬にして壊したような戦争は、あってはならないと思いました。でも今はこの「ピカドン」を経験した人は少ないのが現状です。そんな中、今この話を聞いた自分達が次の時代へのバトンを繋げて、この話が無駄にならないように、これからは戦争のない時代にしていかないといけないと思いました。生きてることがどれだけ幸せであるのかを考えながら、日々感謝して生きていこうと思いました。(3組 男子)

戦争では、私達が当たり前のように食べているご飯も少なく、我慢することも沢山あったのだとわかりました。私達は今、好きなものを食べて、好きな服を買って、色々なことをしています。苦手なものはすぐに減らし、好きなことばかりで、一つ一つのものがどれだけ特別でありがたいものなのか分かっていませんでした。原爆では家族を失い、生きていても死んでしまっても辛く苦しいものだったのだと思いました。それでも、笑って強く生きようとする「ゲン」や他のみんなの姿にとっても感動しました。私はすぐに「もう嫌だ」ってなってしまおうし、すぐに諦めてしまします。戦時中は生きていくのも大変で、沢山の人の苦しめられたのだと思いました。本当に良くないことだと思いました。たくさん嫌な思いをして、たくさん我慢して、強く生き、戦った人々は本当にすごいなと思いました。

「麦のようにたくさん踏まれても、何度でも立ち上がり、まっすぐに伸びろ」その言葉に感動しました。どんなに辛いことがあっても、悔しいことがあっても、何度でも立ち上がり、まっすぐに伸びる。すごく勇気が出る言葉だと思いました。私も何度も何度も立ち止まることが、これからあるかもしれないけれど、その度に強くなり、何度も立ち上がれるようになりたいと思いました。(3組 女子)



戦争は何も残らない。これが意味することが「はだしのゲン」を見て分かりました。

広島と長崎の二つの都市に落とされた原子爆弾は日本にとって大きな損害になったのではないかと思います。世界初にして唯一の原爆の被害を受けた日本は、原爆は恐ろしいものなのだということを今も世界に発信し続けています。戦争の恐ろしさを伝え続けていくためには、とても良い作品だなと思いました。

戦争当時の生活は食料もなく、生きるか死ぬかの二者択一しかなく、とても苦しい生活だったなと思いました。原爆を使わなくても日本は敗戦間近だったという意見もあります。食料も少ない中、生き延びた人達はすごいと思いました。改めて戦争は恐ろしいものだなと思ったし、二度としないで欲しいです。戦争に反対するだけで、いじめられるのは可哀想だったけれど、当時の日本のことを考えると当然のことなのかなと思いました。

この先ずっと戦争が無いようにして行きたいと思いました。(1組 男子)

「戦争は正しくない。止めてしまえ。」というような、正しいことを言っても、この戦争の時代では非国民扱いされてしまい、殴られ、避けられと、戦争の時代はとても苦しい世界なんだと言うことがわかった。原子爆弾の放射線を受けると、毛が抜けてしまったり、原子爆弾によって死んでしまった方々がいることを決して忘れてはならないことだと思う。

「はだしのゲン」という映画でさえ原子爆弾の恐ろしさを感じた。だから、実際はもっとすごかったのだと思う。戦時中は誰もが生きること必死で、他人には目もやれない程、一人一人とても苦しい生活を送っていたのだと分かった。食べ物が無いから、食べ物を盗んだり、嘘をついてお金を貰ったりなどの場面があったが、そこは考えさせられる場面だと思う。生きていくために、どんな手を使ってでも、食べ物を入手するのは良いと思う人もいれば、いくら食べ物が欲しいからと、犯罪をおこすことはダメだと思う人もいるだろう。もし、私がその立場だったとしたら、どんな手を使ってでも食べ物を入手しようとしていたと思う。きっと、一番大切な気持ちは「生きたい！」と言う気持ちだと思う。これから、戦争があったことを忘れずに生きていきたい！(4組 女子)



戦争について話を聞いたただだったので、良く分かっていなかったけれど、「はだしのゲン」を見て改めて戦争は大変なことだと感じました。

今はご飯を食べられることは当たり前だけど、戦争中はお米もいもも食べる物がなく、いつも一つを取り合ったりすることが当たり前で、戦争一つで全てが変わってしまうと分かりました。

感動したところは、ゲンの家族が原爆で家の下敷きにされ、諦めたくないけれど、どうしても出来なくて分かれるシーンです。ゲンの家族はまだ死んでいないのに原爆のせいで、諦めなくてはいけなくなってしまふからです。ゲンの家族は戦争に反対していたので、「非国民だ！」と言われ、反対していた戦争の中で死んでしまいました。私は戦争の怖さなどを知っているので、戦争に反対ですが、当時は、私と同じ意見を言っただけで「非国民」と言われ、助けてもくれなくなってしまつて、とても悲しくなりました。戦争のことは、絶対に忘れずにいたいと思いました。

(2組 女子)

「はだしのゲン」を見て、戦争が原因で起こったことを具体的に学びました。今までは、アバウトに“戦争は悪い”“戦争はやってはいけない”という認識しかしていなかったのですが、何故悪いのか、何故やってはいけないのかという具体的に分かりました。

例えば、ピカドンが落ちる前も、既に苦しい生活をしていました。スूपー杯やサツマイモ一個を貴重とする生活、今では考えられないです。そして食料面だけではなく、戦争に対して応援的じゃないと、非国民と皆から言われてしまい、家族ぐるみで仲間はずれにされてしまいます。それに罪のない赤ちゃんまでもが死んでしまいます。

このようなことを戦争は生み、良いことは一切生まれないということが映画の映像を通して良く伝わりました。

今僕達がこのように毎日、洗濯した服を着て、毎日、ご飯をたくさん食べられて、健康でいられて不自由なく生きていけることに対して感謝し、これから自分達の年代に戦争を繰り返さないよう努力したいです。(4組 男子)

